

2022年3月23日

報道関係 各位

住友不動産株式会社

「花の醍醐」に咲く、“長寿の桜”の子孫樹を 未来へ続く「サステナブルなまちづくり」の象徴として植樹

住友不動産株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:仁島 浩順)は、この度、太閤秀吉が愛した“花の醍醐”として知られる京都の世界文化遺産「醍醐寺」にある、推定樹齢170年超の「太閤しだれ桜」の子孫樹を、東京都心部の当社開発エリア内に、未来へ続く「サステナブルなまちづくり」の象徴として植樹いたしましたので、お知らせします。

■ 醍醐寺、三宝院大玄関前の推定樹齢170年を誇るしだれ桜「太閤しだれ桜」(左写真)と、2004年に植樹された後継樹「太閤千代しだれ」(右写真)



＜住友事業精神を継承した経営理念とまちづくり＞

当社グループは、430年もの歴史を刻む住友の事業精神を経営理念として継承し、公益との調和(自利利他の精神※)を大切に、経済的価値だけでなく、持続的な社会価値を一体的に創出することを念頭に事業展開を図ってまいりました。中核事業である都市開発事業(まちづくり)では、「災害に強い」「環境にやさしい」「地域とともに」「人にやさしい」の4つに重点をおき、社会や地域が抱える課題の解決を図りつつ、より良い社会資産の提供を行う、「持続可能なまちづくり」に取り組んでおります。

※仏教用語からの引用、住友の事業は「住友自身を利すると共に、国を利し、かつ社会を利するものでなければならない」という理念。

＜未来へ続く「サステナブルなまちづくり」の象徴＞

太閤しだれ桜は、太閤秀吉が自身を支えてくれた人々に感謝の意を表すために催した“醍醐の花見”以来、『利他の心の桜』と言われております。長きに亘り醍醐寺が大切に保全し、寺とともに歴史を紡いできた利他の心が込められた「太閤しだれ桜」の子孫樹を、同じく利他の精神を経営理念に持つ当社が開発エリア内に植樹することで、当社の「持続可能なまちづくり」の象徴とします。

太閤秀吉を魅了した厳かで優雅な桜の景観「花の醍醐」の一片で都市の景観に彩りを加えるとともに、東京都心で暮らす人々の心の癒しや、日本の歴史・文化を伝承する機会としてまいります。

■ 新宿住友ビルに植樹した「太閤千代しだれ」



今春、早速咲き始めた桜

新宿住友ビル、IZUMI GARDEN(住友不動産六本木グランドタワー)、大崎ガーデンシティ、住友不動産三田ツインビル西館に植樹しております。

<住友不動産が取り組む「持続可能なまちづくり」>

不動産業は、働き、住まい、交流する拠点やサービスを創出し、都市や人々の暮らしを豊かにする使命を負った社会的意義の高い事業です。

当社はこれまで東京都心の再開発事業を中心に、オフィスビルやマンションを中核としたまちづくりを数多く手掛けてまいりました。開発においては、地域毎の特性や課題を踏まえ、高い防災性や環境性能を備えた、安心で安全、快適な生活環境を創造するとともに、人々が憩い賑わう交流結節点、多様な生物が住まう自然環境を創出するなど、地域との共生を図り、持続可能な活力のあるまちづくりに取り組んでまいりました。

当社は、今後も後世まで持続可能な社会資産を提供する「サステナビリティ経営」を実践してまいります。

■ 大崎ガーデンシティ(東京都品川区品川)における地域課題解消事例



<木密地域の延焼リスク(細街路)の解消>



<地域に不足する広場、緑地を整備(約8,000㎡の広大な広場)>



従前の地区は、自動車教習所、事業所、住宅などが密集

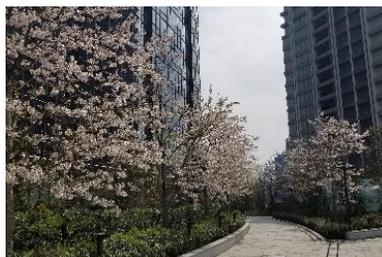
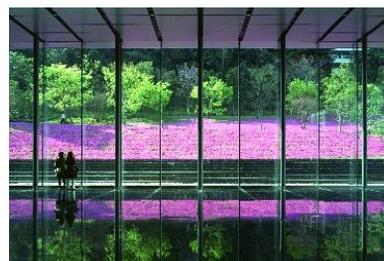
現在、地元お祭りの拠点などとしても活用

<桜のある都市景観>

まちの存続には、持続的な賑わい創出が欠かせません。当社は、これまでも地域の人々が集まり交流する緑豊かな広場や、春の訪れを知らせる「桜のある景観」など四季を彩る景観によって賑わいを創出し、地域の魅力を高めてまいりました。

今回植樹する桜は、長期に存続する都市の創造に取り組む、当社のまちづくりの象徴とするとともに、新たな地域の賑わい創出に繋げてまいります。醍醐寺の桜は、秀吉も愛した桜の子孫であり、今も荘厳な姿で人々を魅了し続けています。当社は、その「花の醍醐」の一部を都心で暮らす皆様にお届けし、日本の良き歴史、文化をお伝える機会にしてまいります。

■ まちづくりを通じて創出してきた「桜のある景観」事例



「IZUMI GARDEN(六本木一丁目)」
昼と異なる 夜の幻想的な桜並木

「大崎ガーデンシティ」
地域との桜まつりと桜並木

「住友不動産三田ツインビル西館」
都内では希少な芝桜

<世界文化遺産「醍醐寺」と「醍醐の桜」について>

醍醐寺は、874年、弘法大師空海の孫弟子にあたる聖宝理源大師が開いた真言宗醍醐派の総本山で、1,150年に渡る長い歴史の中で、天皇、公家、武家、民衆と多くの信仰を集めてきた世界文化遺産にも指定されている古刹(こさつ)※です。醍醐の山上、山下にわたる約200万坪の広大な境内(寺領)には、豊かな自然と共に、京都府最古の国宝・五重塔など歴史的に貴重な建物が多く所在しています。

※由緒ある歴史の古いお寺。

■伽藍桜満開



■上醍醐(山上)登山口



醍醐寺を開いた聖宝尊師は、宗祖弘法大師空海の教えである、自然と人との一体とした宇宙観の中に基本があり、自然との関わり合い、自然の中に生きることの意義を重んじる教えを継承し、自然と一体となり、自身の命を考える時に、他の自然界に全ての命をまず考え、その命の繋がりを大切にされてこられました。

こうした教えを説く醍醐寺で太閤秀吉が行った「醍醐の花見」は、慶長の大地震などで城が大きく損壊してしまった中、自身を支えてくれた多くの方々に感謝の気持ちを込めて行った花見でした。その秀吉公の「こころ」は、まさに醍醐寺開創以来伝えられた祈りや、他の命を思うことであり、他の人の心を思うことでした。

以来、醍醐寺の桜は「人が人を思う、思慕の桜であり、他の人のために何かを成し遂げる利他の心の桜」とされています。

「利他の心」が込められた「醍醐の桜」は、東日本大震災をはじめ、各地の地震や台風による被災地に送られ、心をつなぐ桜として全国に広がりつつあります。

◆ 本リリースに関する取り組みは、以下のSDGs目標に貢献しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



目標6 安全な水とトイレを世界中に
目標13 気候変動に具体的な対策を
目標17 パートナーシップで目標を達成しよう

目標11 住み続けられるまちづくりを
目標15 陸の豊かさを守ろう

当社では「よりよい社会資産を創造し、それを後世に残していく」を基本使命として掲げ、事業を通じた社会課題の解決に取り組んでおります。今後も、「環境・社会に配慮した性能」を兼ね備えた価値の高い社会資産を創造し、より一層、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

<当社のESG、SDGsに関する取り組み> <http://www.sumitomo-rd.co.jp/sustainability/>